

家庭教育支援チーム・リーダー養成講座② 実施レポート

日時：平成30年8月23日（木）10時～15時

会場：秋田県生涯学習センター 4階 第1研修室 参加者：48名（うち市町村等から37名）

第2回となった今回のリーダー養成講座では、「学校と子どもの現状を理解しよう」というテーマで、講義とグループごとの協議を行いました。インターネットと子どもを取り巻く状況や、学校・家庭・地域の連携が進展する中での家庭教育支援の在り方など、今日的な課題について理解を深めることができました。

【午前の部】

「ネット時代」の子育ては、これまで誰も経験したことのないことであり、保護者にも戸惑いが見られるのが現状です。そこで今回は、「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」で事務局を務められている高橋大洋氏に、「ネット時代に生きる子どもたちの現状」と題して講義をしていただきました。高橋氏は、「子どもに自転車の乗り方を教えるように、情報機器の利用方法を教えるにも段階がある」と述べられ、「**易しい利用から、難しい利用へ**」4つのステップを踏んで、インターネットの世界に“デビュー”させるモデルを示されました。



＜ポイントが明確な高橋氏の講義＞



＜ガヤガヤタイムでの意見交換の様子＞

また、日進月歩で進んでいく情報技術の取り扱い方について、大人がすべてを把握しようとするのではなく、**子どもたちが陥りやすい誤解や基本的な情報技術の特性（公開性・不可逆性・非匿名性など）について理解し、それを地域の大人同士のネットワークの中で共有できることの方が重要**であると強調されていました。講義では、受講者同士が自分と周囲のネット利用の状況などについて意見交換する「ガヤガヤタイム」も設けられ、積極的に情報交換をしたり共感し合ったりする場面も見られました。

【午後の部】

午後は、生涯学習センターの加賀谷宗篤社会教育アドバイザーが、「学校との関係を深めるために知っておきたいこと」について講義を行いました。様々な統計データや資料から、「学校（教師）と家庭（保護者）の思惑の違い」や「学校に求められていることの変化」、「家庭教育支援チームの活躍が期待できそうな場面やヒント」などを明らかにされました。

学校・家庭・地域で連携可能な部分を探っていく必要があることを理解した上で、後半は「**家庭教育支援チームが学校とパートナーシップを結んでいくために必要なこと**」を話し合うグループ協議を行いました。協議



＜加賀谷アドバイザーの講義＞

では、「子や孫が卒業してしまいPTA活動から離れると学校に関わりにくくなる」「話しづらい・迷惑になるのではないかなど敷居を高く感じてしまう」などの課題意識が出され、「**学校行事など比較的地域の人が参加しやすいタイミングを活用し、存在を知ってもらうことから始めたい**」などのアイデアが出されていました。

【参加者の声】（抜粋）

- ・ネットに関わらずすべてにおいて大事なことは共通していると感じた。「ネットをうまく使える大人か」ではなく、子どもにとって頼りになる大人でありたいと思った。
- ・学校側の立場で守りたいものが少しかけ見えました。
- ・データ等から家庭のおかれている問題を把握できた。特にしつけなど子どもの生活指導に不安や悩みをもつ親が多いことを把握できたので、家庭教育支援チームの役割がそこにあると感じた。